

V. 福島西道路

V-1. 事業概要

(1) 事業概要

福島西道路の事業概要は以下のとおりである。

表 事業概要

■事業名	福島西道路沿道風景づくり事業
■事業分野	道路
■事業の種類	地域整備
■賞の受賞	平成7年度 土木学会技術賞
■特に参考となる効果	コミュニティ効果
■事業対象・規模	対象： (福島県福島市) 規模：L=約 2km、W=40m(環境施設帯 W=10m を片側に有す)
■事業主体	国土交通省 福島工事事務所
■周辺の関連事業	福島西土地区画整理事業
■景観検討の段階	計画・設計・施工
■PIの有無	あり
■事業期間・竣工	昭和 57 年度 ～ 平成 9 年度
■事業概要	福島西道路は、一般国道13号のバイパス道路であり、福島市の西部地区に位置する。本事業の対象区間は、平成7年に暫定2車線で供用された延長約2kmの区間であり、中心市街地の交通渋滞緩和と西部地区の新しい骨格としての役割を担い整備された。整備にあたっては、良好な街並み景観の創出や、地域の歴史・文化を“ゆとりの空間”に活かすこと、また沿道にある湧水や神社森の再生などが、配慮すべき事項として挙げられた。ここで、“ゆとりの空間”とは、既存市街地を通過することにより生じた三角形の断続する残地を、歩道と一体に整備されたものである。 また本事業は、地域住民の協力を得たまちづくり、風景づくりのモデルとして、美しい山並み(吾妻連峰、信夫山)や良好な周辺環境など地域の特性を活かした魅力ある沿道環境の創造を目標に進められた。なお本事業においては、平成7年度に、福島工事事務所と福島市が土木学会技術賞を受賞している。
	   地域住民による協議会の様子 地下歩道の広場空間 住民により毎日継続される清掃活動   ▲整備後の状況 残地を利用したポケットパーク

(2) 事業対象地位置図

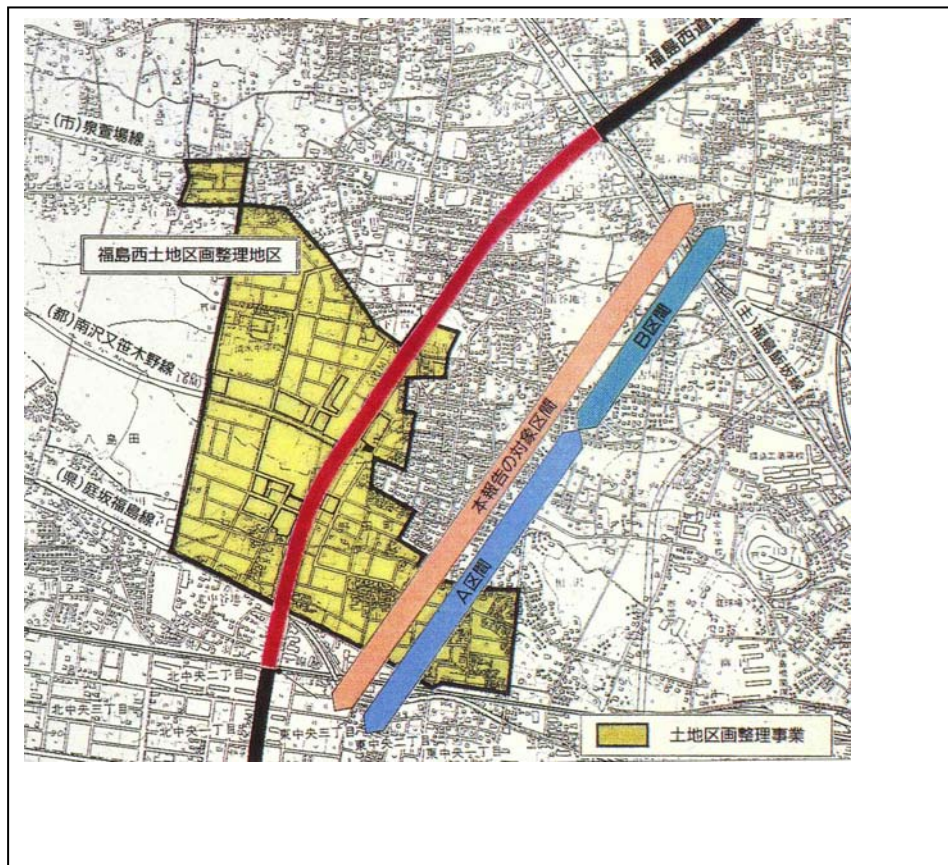


図 事例対象位置図

■検討体制図

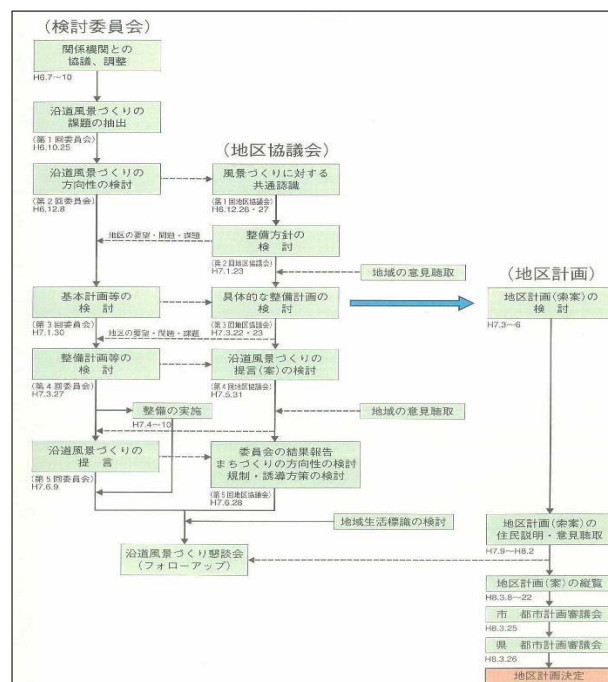


図 検討体制図

V-2. 計画・設計の意図および期待される効果

(1) 計画・設計の意図

文献調査、設計者ヒアリング、事業者ヒアリングより、当該施設の整備の方針は、大きく6つに整理される。以下に、各方針に対する計画・設計の考え方と内容をまとめる。

1) 沿道と地域特性を活かした道づくり

福島西道路は、一般国道13号の改築事業として福島市の西部に位置し、福島駅を中心として放射状に延びる道路を結ぶ延長約6.4km、幅員約40mの環状道路である。

計画位置は、吾妻山をはじめとして周辺の美しい山並みに囲まれ、阿武隈水系の荒川や松川と交差しながら、田園地帯、土地区画整理区、住宅地等を通過する沿道風景豊かな道路である。

このような背景と条件の中で、福島西道路は、学識者等からなる「福島西道路沿道風景づくり検討委員会」、「地域の代表者からなる「地区協議会」や「地区懇談会」を組織し、より良い都市景観をつくり、市全体の風景づくりの先駆けとなるような街づくりを進めるため、検討、意見交換がなされ、それら意見を踏まえながら整備が進められた。

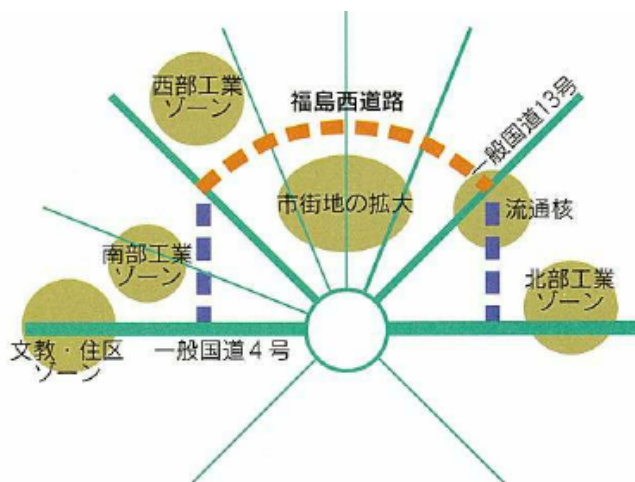


図 環状道路として道路ネットワーク形成



図 福島西道路の沿道土地利用

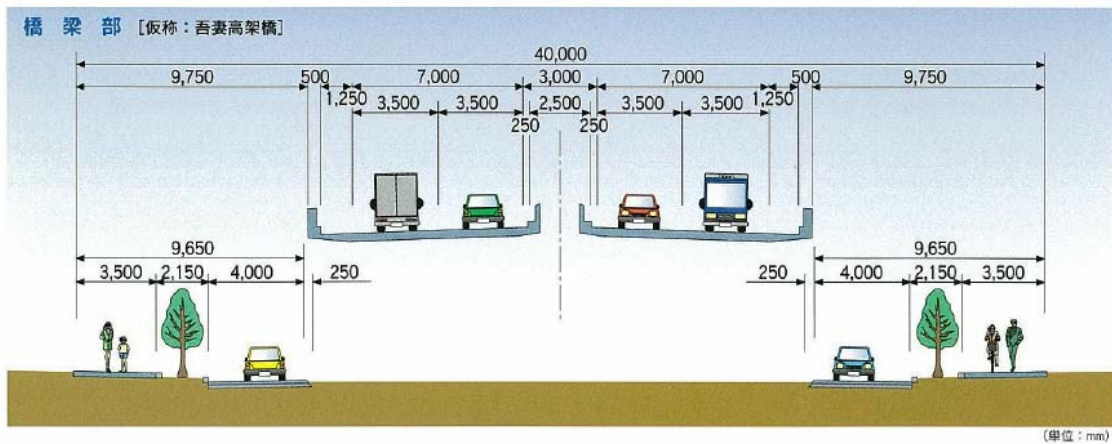
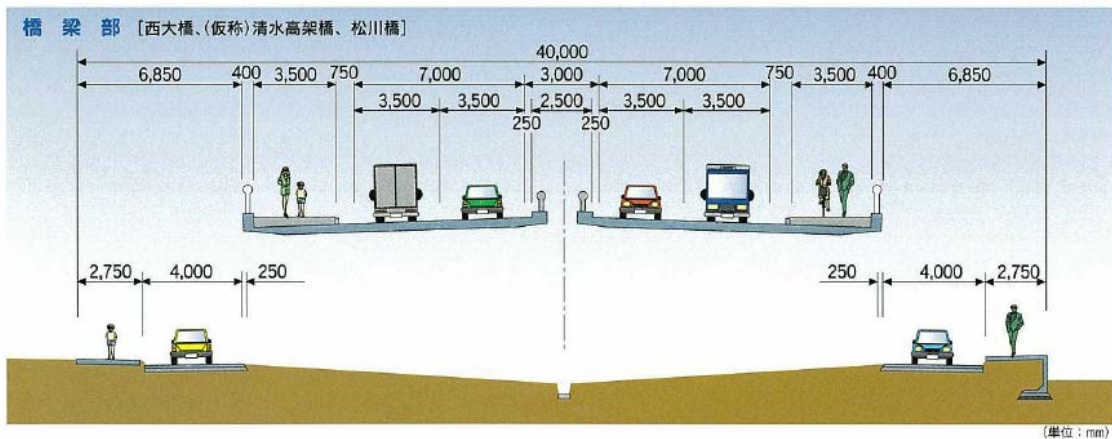
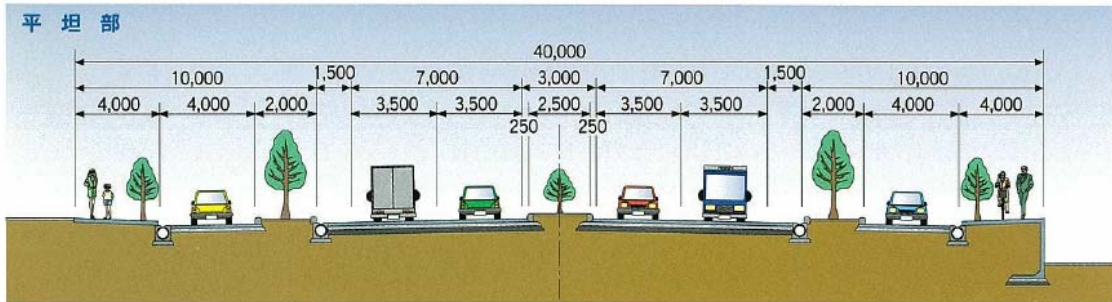
路線の概要と標準断面図

事業区間 (自) 福島市吉倉 (至) 福島市南矢野目 L=6,400m

構造規格 第4種第1級

標準幅員 40m (環境施設帯片側10m)

- 昭和57年度 都市計画決定
- 昭和57年度 事業着手
- 昭和59年度 用地着手
- 昭和62年度 工事着手
- 昭和63年度 一部供用 (L=400m)
- 平成5年度 一部供用 (L=1,600m)
- 平成7年度 一部供用 (L=2,400m)



2)「福島西道路沿道風景づくり」

1. 基本理念

沿道風景は、道路及び沿道の街並み、さらにはそれをつくる人々、使う人々の相互の働きかけによって形成されるものであり、沿道風景づくりを、次のような基本理念のもとに進められた。

「ひと・まち・みちの連携により沿道風景を育む」

2. 整備の方向性

基本理念にもとづく具体的に整備の方向性は、以下の4つを掲げた。

- ①魅力ある道路づくり（みちとまち）
- ②みちとまちが融合した良好な地域環境づくり（みちとまちとひと）
- ③様々な役割に応じた道路の管理（みちとひと）
- ④市民とともに風景を育むしくみづくり（ひととひと）

上記基本項目に対する具体的な整備項目は以下の通りである。

①魅力ある道づくりの考え方 ■歩道空間や車道空間の整備 ・ 高齢者や身障者が使いやすい構造 ・ 「たまり」機能の充実 ・ 沿道建築物と調和する空間づくり ・ 道路の軸船に統一性をもたせる ・ 各交差点を特徴化する ・ 周辺景観の眺望せいを確保する ■ゆとり空間の整備の考え方 ・ 用地取得による空地の整備 ■高架下空間の地域活用を図る。	②みちとまちが融合した良好な地域環境づくり ■歩道沿いオープンスペースの確保 ・ 地区計画制度を活用して確保する ■沿道建築物の環境づくり ・ 沿道建築物の高さや色彩等について地区計画を立てて誘導する ■良好な住居環境の維持 ・ 用途を地区計画制度でコントロールする ■緑化の推進 ・ 地区計画制度を活用する
③様々な役割に応じた道路の管理 ■防災空間の確保 ・ 緊急避難路の充実 ■高度情報化への整備 ・ 光ファイバーや電線共同溝の推進 ■植栽の維持管理向上 ・ 地域住民との一体管理 ■維持管理の向上 ・ 地域住民による破損箇所等の情報提供	④市民とともに風景を育むしくみづくり ■市民参加の道路づくり ・ 地域の意見を反映する ■市民参加の街づくり ・ 植栽への散水や清掃等の愛護運動 ・ 街を守るルールづくり ■活動への行政支援 ・ 道具の提供や資金援助 ・ まちづくり活動に専門家や相談員の派遣

3) デザインへの反映

①景観計画・設計・施工の一貫性

- ・地域への計画説明には、模型やパースなどを活用し、ビジュアルに計画を示し、地域から具体的な意見が得られるように努めた。
- ・多様多様な施工業者と素材メーカーなどの連携をスムーズにするため、関係者による調整会議を頻繁に開き、丁寧な施工がなされるよう配慮。

②沿道との一体的整備

- ・「ゆとり空間」を活用し、歩道と沿道内緑地との一体的整備に努めた。
- ・歩道の舗装材は、自然石の質感をもったインターロッキングブロックを仕様するとともに、縁石も同種の素材とし、歩道空間の一体的広がりを持たせた。

③沿道土地利用に応じた植栽などによる景観整備

- ・各交差点に設置したシンボルツリー植栽は、樹形の美しさを際立たせるとともに、夏の緑陰となるよう、添え木を用いずアンカーによる埋設支持を行った。
- ・潜在植生であるケヤキやカツラを主体とするとともに、ポイント的に福島県の彩りである桃、ハナミズキなどの花木を配置した。

④地域の自然、歴史条件を活かした整備

- ・吾妻連峰を源とした伏流水を「ゆとり空間」
- ・に誘引し、「せせらぎ」をつくるとともに、昭和40年代まで見られた“ホタル”の復活に向けた地域の取り組みを支援した。
- ・吾妻連峰の山並みを内部景観に取り入れるため、高木植栽の樹間調整や高架橋上からの眺望の確保に努めた。
- ・沿道にあった神社森を保持し、歩道と一体的な空間として整備し、地域の歴史を感じることができる空間づくりに努めた。
- ・高架橋照明柱は、支柱高の抑制等により、夜景にも配慮したデザインを採用している。

⑤地域素材の活用

- ・道路整備により道路前面となった既存民家と歩道との境界部について、ウッディな街並み形成と歩行者の視線を遮るため、地域の林業から提供をうけた間伐材を活用した仕切りを設置。
- ・「ゆとり空間」には木の切り株を用いたベンチや、集水マスなど、グレーチングの太い間伐材を用いるなど、地域の素材を活用した。

⑥交通安全施設（標識、信号等）のデザイン

- ・交差点の信号・照明柱は、共架形式とし、支柱の本数を減らすとともに、細い部材による4本柱形式とし、なるべくスレンダーな構造とした。

- ・また道路案内標識板も含め、区間内の支柱構造形式や色彩を統一し、区間内のデザインの統一に留意した。

⑦走行性、安全性の確保

- ・高架橋路面には、凍結抑制舗装を採用し、また交差点と隣接する高架橋前後に排水性舗装を採用し、通行車両の走行性、安全性確保に配慮した。

⑧地下歩道の景観整備

- ・地下歩道の導入部については、極力外部からの採光に努めた構造とした。また、照明は間接照明とし、壁材には、明るい色彩を採用することで、安心して入ることの出来る空間づくりに努めた。
- ・スロープは、滑りにくい素材とするとともに、触り心地のよい木材の手摺の設置や地下歩道内の屈曲部にカーブミラーを置くなど、利用者への親和性及び安全性に配慮した。
- ・交差点下の地下歩道空間には、地下広場を作り、地域の情報板やミニギャラリー等、コミュニティ活動の拠点となる空間を整備した。

■現況写真







(2) 期待される効果

1) 設計意図と期待した効果のまとめ

文献調査と設計者ヒアリング、事業者ヒアリングによる計画・設計意図と期待される効果の対応は以下のようにまとめられる。

意図		景観に配慮した内容	期待される効果
A 沿道との一体的な整備			
1	歩道と一体となった「ゆとり空間」の創出	○三角地の残地を道路用地に取り込んでゆとり空間として活用し、ポケットパーク等に利用	●利用形態・頻度等の変化、近隣住民同士の会話の場
2	良好な街並みの誘導	○土地区画整理事業と連携しながら、沿道を中心に地区計画を策定	●商業活動の変化、沿道建物のファサード変化、軒先空間の変化、周辺景観の改善
B 広場空間を設けた地下歩道の整備			
1	利用者の安全性に配慮した明るい地下歩道整備	○外部からの採光に努めた構造、間接照明の採用、明るい色の壁材の採用	●地域活動（イベント・行事）活性化、近隣住民同士の会話の場、清掃等の維持管理活動
2	コミュニティ活動の拠点となる空間の整備	○地域の情報板やミニギャラリー等の整備	
C 沿道の自然・歴史の再生・活用			
1	沿道の神社林の保持	○沿道の神社林の保持し、歩道と一体的な空間として整備	●利用形態・頻度等の変化、地域活動（イベント・行事）活性化、環境保全・学習活動 ●視点場の形成
2	ホテルの生息環境の復元	○伏流水を誘引し、「ゆとり空間」に「せせらぎ」を整備	
3	吾妻連峰の山並みを取り入れた道路整備	○高木植栽の樹間調整、高架橋上からの眺望確保	
D 維持管理システムの構築			
1	施設整備に関する維持管理手法の構築	○沿道に湧き出る伏流水を活用した散水施設の設置、保水効果・雑草萌芽抑制のための松の樹チップの活用	●樹木の手入れ・花壇等の設置、清掃等の維持管理活動
2	景観に配慮した素材の確保維持	○インターロッキングや縁石などの一定備蓄、区間毎の管理マニュアルの作成	

表 設計意図と期待した効果のまとめ

2) 期待される効果の発現段階における整理

上記期待する効果について、効果の発現段階の「意識変化」、「活動変化」、「空間変化」において以下のような効果が想定される。

表 発現段階ごとの効果の整理

期待する効果	意識変化	活動変化	空間変化
●沿道と一体となった道路景観の向上	○「気持ち良い」などの印象評価向上 ○親しみ・愛着の醸成		○沿道建物の修景 ○屋外広告物への配慮 ○周辺施設の連帯性の向上
●ゆとり空間、地下広場空間等における地域のコミュニティ活動の活性化	○愛着の醸成 ○誇りの創出	○施設を利用した地域活動の活性化 ○環境保全、学習活動	
●沿道の自然・歴史の再生・活用	○地域資源の顕在化による誇りの創出 ○「気持ち良い」などの印象評価向上	○イベントの開催 ○休憩・滞在時間の増加	○視点場の形成
●地域住民による維持管理活動の継続		○清掃等の維持管理活動	

これを踏まえ、各段階における効果の把握調査を実施した。

I－3. 調査方法と調査結果

(1) 調査方法

1) 調査の設計

本事例の特性を踏まえ、調査方法について以下のように設計した。

福島西道路は、現地での事前調査の結果より、散歩や休憩、花木の手入れや清掃等、地元住民の日常的な利用が多く見られることが確認されていたため、アンケート調査対象者は沿道徒歩圏内の地元住民とした。調査票の配布方法は、ポスティングとした。

ヒアリング調査対象については、福島西道路において定期的にイベントや維持管理活動を実施している、自治会や地元中学校、また本事業を通じて活動が発展した団体とした。これら対象は、事前に事業者や市に現在活動している団体名とその状況を聴取した上で、調査協力を依頼した。

定点観測調査については、出来るだけ多くの利用実態を捉えるため、平日と休日の両日調査を行った。

表 調査手法と調査内容

調査手法		対象	手法	調査内容
アンケート調査	整備対象位置周辺の地元住民	整備対象から徒歩圏内（道路軸方向に500m幅の範囲内）の世帯 ※回収結果： 332／800 通 （回収率 42%）	道路に近い箇所からの全戸ポスティング（訪問時在宅であれば手渡し）	
	整備対象の位置する市町村の地域住民	—	—	
	現地来訪者（観光客を含む）	—	—	
ヒアリング調査	事業主体（行政）関係者	①福島河川国道事務所	訪問ヒアリング	
	利用団体	①北森合自治会会長 志田氏 ②福島市立清水中学校教頭 遠藤氏 ③泉扇田親和会衛生部長 高橋氏 ④清水ほたるの会副会長 二階堂氏	訪問ヒアリング	
	対象建築物等所有者	—	—	
定点観測調査		平日、休日	—	

2) アンケート調査票（地域住民用）

「福島西道路」の景観整備の効果に関する アンケート調査票

※各設問に対するお答えとして該当する箇所に ○ をお書きください。

※なお、本調査で対象とする『福島西道路』は別紙の図の範囲です。この範囲についてお答えください。

現在の『福島西道路』とその整備（～平成7年）についてお伺いします

問1

『福島西道路』を知っていますか。

- 1 知っている（実際に見た（通った）ことがある）
- 2 知っているが、実際に見た（通った）ことはない
- 3 知らない（この調査で初めて知った）

問2

『福島西道路』の整備（～平成7年まで）において、景観に配慮した道路整備や沿道を含めた風景づくりが行われたことを知っていますか。

- 1 知っている
- 2 知らない（この調査で初めて知った）

問3-1

『福島西道路』の整備（～平成7年まで）において、地域住民や事業者などの意

見を聞き、事業に反映させるために計画・設計の段階で開催されたワークショップ等*に参加しましたか。

※ ワークショップ等：「福島西道路沿道風景づくり検討委員会」、「福島西土地区画整理地区協議会」、「地区協議会（清水／泉／南沢又／森合）」、「清水地区児童懇談会」、「清水地区中学生懇談会」、「清水地区女性懇談会」など

- 1 参加したことがある
- 2 開催されたことは知っていたが、参加したことはない
- 3 開催されたことを知らず、参加したことがない

問3-2

問3-1で「1 参加したことがある」を選択された方にお伺いします。

参加されたワークショップとその参加回数について、それぞれご記入ください。

- | | |
|----------------------|-----------|
| 1 福島西道路 沿道風景づくり検討委員会 | (回) |
| 2 福島西土地区画整理地区協議会 | (回) |
| 3 地区協議会（清水／泉／南沢又／森合） | (回) |
| 4 清水地区児童懇談会 | (回) |
| 5 清水地区中学生懇談会 | (回) |
| 6 清水地区女性懇談会 | (回) |
| 7 参加したが、よく覚えていない | (回) |

問3-3 全員にお聞きします。

問3-1に対するご回答について、特に具体的な理由がございましたら、以下の
枠にご記入ください。(自由回答)

(回答例)・広報でみて興味がわき、参加した

・参加している知人にすすめられたが、都合が合わず参加しなかった 等

以下、問4～問15までは、「問1」で「1. 知っている」とお答えした方に伺います。

それ以外の方は、「問16」に進んでください。

問4 『福島西道路』の景観の全体的な印象について、どう思いますか。

大変悪い	悪い	良い	大変良い	何とも 思わない
1	2	3	4	5
				+

問5

『福島西道路』について、(A) から (J) までの各項目で、該当するものを選択

してください。

A. 幅の広い歩道や、ゆとりのある沿道の空間	大変悪い 1 	悪い 2 	良い 3 	大変良い 4 	何とも 思わない 5 +
B. 足元が照らされた夜の歩道	大変悪い 1 	悪い 2 	良い 3 	大変良い 4 	何とも 思わない 5 +
C. 道路に隣接する公園や、歩道の脇に設置された休憩スペース	大変悪い 1 	悪い 2 	良い 3 	大変良い 4 	何とも 思わない 5 +
D. 緑豊かな沿道の植栽や草花	大変悪い 1 	悪い 2 	良い 3 	大変良い 4 	何とも 思わない 5 +
E. 地域の個性や歴史を感じる、ほたるの里公園やほたるのせせらぎ公園	大変悪い 1 	悪い 2 	良い 3 	大変良い 4 	何とも 思わない 5 +
F. 吾妻連峰の山並みや信夫山の、道路からのながめ	大変悪い 1 	悪い 2 	良い 3 	大変良い 4 	何とも 思わない 5 +
G. 地域の情報がわかる、地下道の情報板・ギャラリー	大変悪い 1 	悪い 2 	良い 3 	大変良い 4 	何とも 思わない 5 +
H. 沿道のまち並み	大変悪い 1 	悪い 2 	良い 3 	大変良い 4 	何とも 思わない 5 +
I. 定期的に清掃される沿道や地下歩道	大変悪い 1 	悪い 2 	良い 3 	大変良い 4 	何とも 思わない 5 +
J. 沿道の植栽や草花が手入れされたようす	大変悪い 1 	悪い 2 	良い 3 	大変良い 4 	何とも 思わない 5 +

問6

問5でお答えいただいた（A）～（J）について、特に具体的な理由やご意見など
がありましたら、以下の枠にご自由にご記入ください。（自由回答）

問7

また、問5でお答えいただいた（A）～（J）以外で、『福島西道路』について、
ご意見などがありましたら、教えてください。（自由回答）

問8

『福島西道路』に対して、親しみ・愛着（大切に思う、守っていききたいなど）を感じますか？

全く 感じない	あまり 感じない	やや 感じる	とても 感じる	どちらとも 言えない
1	2	3	4	5
-----				+

<理 由> （複数回答可）

- 1 この地域での居住年数が長く、普段からよく散歩しているため
- 2 ワークショップ等に参加して、沿道の風景づくりを皆で考えたため
- 3 福島西道路の風景や、福島西道路からながめられる周辺の風景が好きだから
- 4 普段乗用車でしか通らず、長い時間過ごしたことがないため
- 5 その他 （ ）

問9

『福島西道路』を誇り（自慢できる、人に紹介したいなど）に思いますか？

全く 感じない	あまり 感じない	やや 感じる	とても 感じる	どちらとも 言えない
1	2	3	4	5
-----				+

<理 由> （複数回答可）

- 1 他の場所ではみられない風景を、ながめることができるため
- 2 先進的な事例として表彰されたことを、新聞や広報などで知ったため
- 3 自分にとってはごく普通の道路で、見慣れているため
- 4 その他 （ ）

現在の『福島西道路』の利用について、お伺いします

問10

『福島西道路』のご利用について、以下の（A）～（G）の利用内容それぞれについて該当するものを選択してください。

A. ショッピング など目的地ま での通り道	ほぼ 毎日 1 -----	週 2～3 回 程度 2 -----	月 2～3 回 程度 3 -----	年数回 程度 4 -----	ほとんど なし 5 -----
B. 通勤・通学路	ほぼ 毎日 1 -----	週 2～3 回 程度 2 -----	月 2～3 回 程度 3 -----	年数回 程度 4 -----	ほとんど なし 5 -----
C. 散歩・ジョギ ング・ウォー キング	ほぼ 毎日 1 -----	週 2～3 回 程度 2 -----	月 2～3 回 程度 3 -----	年数回 程度 4 -----	ほとんど なし 5 -----
D. 写真撮影・ス ケッチ・周り の景色を眺め る	ほぼ 毎日 1 -----	週 2～3 回 程度 2 -----	月 2～3 回 程度 3 -----	年数回 程度 4 -----	ほとんど なし 5 -----
E. 休憩スペース や隣接する公 園での休憩	ほぼ 毎日 1 -----	週 2～3 回 程度 2 -----	月 2～3 回 程度 3 -----	年数回 程度 4 -----	ほとんど なし 5 -----
F. イベントの実 施、参加、鑑 賞 (沿道の隣接する 公園などで開催 されるイベント を含む)	ほぼ 毎日 1 -----	週 2～3 回 程度 2 -----	月 2～3 回 程度 3 -----	年数回 程度 4 -----	ほとんど なし 5 -----
関わられたイベントについて、お答えください。 (イベント名 : _____、 開催場所 : _____、 開催時期 : _____)					
G. 清掃などの維 持管理の活動	ほぼ 毎日 1 -----	週 2～3 回 程度 2 -----	月 2～3 回 程度 3 -----	年数回 程度 4 -----	ほとんど なし 5 -----
維持管理活動について、該当する項目を選択してお答えください。 1. 個人的に行っている。 2. 地域の団体活動として行っている。 (活動団体名 : _____) 活動場所 : _____)					

問 1 1 問 1 0 の (A) ～ (G) 以外で、『福島西道路』を利用して行っていることがあ
りましたら、教えてください。(自由回答)

--

問 1 2 整備後の『福島西道路』利用の変化について、該当するものを選択してください。

利用の変化 利用の内容	1. 整備前は行 っていなかった が、整備後に 行うようになった	2. 整備前は別 の場所で行っ ていたが、整備 後に『福島西道 路』で行うよう になった	3. 整備前も整 備後も、別の 場所で行って いる	4. 整備前も整 備後も、行っ ていない
A. ショッピング など目的地ま での通り道	1 _____	2 _____	3 _____	4 _____
B. 通勤・通学路	1 _____	2 _____	3 _____	4 _____
C. 散歩・ジョギ ング・ウォー キング	1 _____	2 _____	3 _____	4 _____
D. 写真撮影・ス ケッチ・周り の景色を眺め る	1 _____	2 _____	3 _____	4 _____
E. 休憩スペース や隣接する公 園での休憩	1 _____	2 _____	3 _____	4 _____
F. イベントの実 施、参加、鑑 賞	1 _____	2 _____	3 _____	4 _____
G. 清掃などの維 持管理の活動	1 _____	2 _____	3 _____	4 _____

問13 福島西道路の整備とともに「地区計画」*が定められていることをご存知です

か？ 該当する項目を選択してください。

※「地区計画」：都市計画法に基づく都市計画決定を受けた地区で、その地区内の敷地面積、建築物等の壁面位置、形態・意匠、垣・柵の構造などについて定めたものです。福島西道路周辺では、福島市南沢又、八島田、野田町、笹木野地区の各一部の沿道街区と住宅街区、約58.8haについて地区計画が定められています。

- 1 知っている
- 2 知らなかった

問14 あなたのご自宅や店舗などに関してご自身が取り組まれていることについて、該

当するものを選択してください（複数回答可）。

- 1 自宅や店舗の建物の外観を、周囲の景観に配慮して整備した

(具体的な配慮点について、ご記入ください)

--

- 2 自宅や店舗のまわりに植栽（植木や草花）をしつらえている
- 3 自宅や店舗の前（自宅・店舗の敷地外）の歩道空間の植栽の手入れや、清掃（掃除、ゴミ拾い等）などを行っている
- 4 その他（ ）
- 5 特に何もしていない

問15

問14でお答えいただいたご自身で取り組まれている景観への配慮について、理由として該当するものを選択してください。

(問14で選択した項目についてのみお答えください。)

理由 景観への配慮	1. 「地区計画」 に定められた事 項にしたがって	2. 福島西道路 がきれいに景 観整備された ので	3. その他
1 自宅や店舗の建物の外 観を、周囲の景観に配慮 して整備した	1 _____	2 _____	3 _____
2 自宅や店舗のまわりに 植栽（植木や草花）をし つらえている	1 _____	2 _____	3 _____
3 自宅や店舗の前（自宅・ 店舗の敷地外）の歩道空 間の樹木の手入れや清 掃（掃除、ゴミ拾い等） などを行っている	1 _____	2 _____	3 _____
4 その他	1 _____	2 _____	3 _____

問16

『福島西道路』について今後期待することなど、ご意見がございましたら、下欄にご自由にご記入ください。

最後に、本アンケートにご記入いただいたあなた自身についてお伺いします

あなたの年齢、お住まいについてお答えください。

- (1) 年 齢： 1 10 歳代 2 20 歳代 3 30 歳代 4 40 歳代
 5 50 歳代 6 60 歳代 7 70 歳代 8 その他
- (2) お住まい： 1 福島西道路沿い（道路に接している）
 2 その他（福島西道路まで徒歩____分）
- (3) お住まい始めた年： 1 平成 7 年以前 2 平成 8 年以降（整備完了後）
- (4) 住居形態： 1 戸建住宅 2 店舗（事務所）兼住宅 3 店舗
 4 アパート・マンション 5 その他
- (5) 職業 ： 1 自営業 2 会社員等 3 パートタイマー
 4 専業主婦 5 無職 6 学生 7 その他

ご協力、ありがとうございました。

(2) 調査結果

1) 調査結果概要

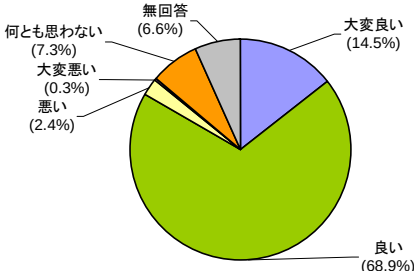
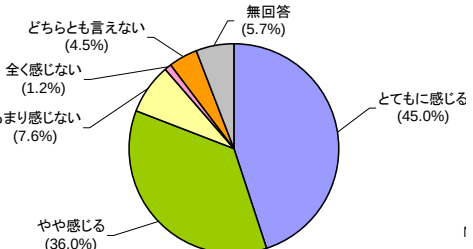
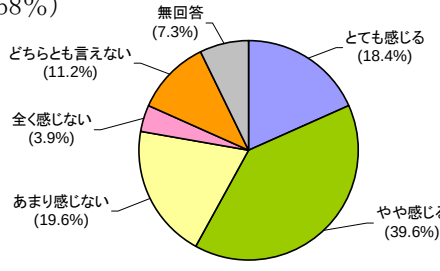
事例名称		事業分野・施設所在都道府県		事業主体		事業特性		調査範囲等	
Ⅶ	福島西道路	道路	福島	国土交通省 東北地方整備局 福島河川国道事務所	1998竣工、新規整備、PⅠの実施あり、大規模（地域全体へ影響）、地域住民以外の利用あり				
調査結果概要									
現地での調査		対象	手法	捉えられた効果					
				意識変化	活動変化	空間変化			
利用者	利用者へのアンケート調査	地域住民（道路から鉛直方向に500m幅の範囲内）800世帯の全世帯 ・回収数：332通（回収率42%）	各戸への手渡し（不在時についてはポストイング）	○ゆとりある沿道空間が生まれた ○よい景観の道路ができた ○地域資源、環境に対する親しみ、愛着 ○地域資源に対する誇り ○対外的評価を受けたことに対する誇り	○新たな散歩コースになった ○沿道のあづまやや隣接する公園で過ごすようになった ○イベントに参加するようになった ○清掃などの維持管理活動に参加するようになった	○自宅（店舗）の建物の外観整備 ○植栽の配置			
	利用団体（個人利用者）へのヒアリング調査	①北森合自治会 ②福島市立清水中学校 ③泉扇田親和会 ④清水ほたるの会 その他個人利用者	ヒアリング	○よい景観の道路ができた ○地域資源、環境に対する親しみ、愛着	○新たにイベントを実施するようになった ○既存の維持管理活動のアダプトプログラムへの参加 ○既存の維持管理活動の、ボランティアサポートプログラム締結 ○沿道大型店舗による清掃活動開始 ○学校の恒例行事としての清掃活動の実施 ○散歩のルートとしての利用 ○休憩スペースや隣接公園での休憩 ○水生動物との触れ合い ○池に浮かぶゴミ拾い	—			
	定点観測調査	平日・土日の沿道利用者	沿道で定点観測	—	—	—			

景観整備による効果		具休内容	
意識変化	整備した空間の機能向上に対する認知	・幅の広い歩道、ゆとりのある沿道空間が生まれた ・道路に隣接する公園や、歩道の脇に設置された休憩スペースが良い	
	造形・施設・空間の印象評価	・全体的に印象の良い景観の道路である ・吾妻連峰の山並みや信夫山の、道路からのながめが良い ・緑豊かな沿道の植栽や草花が良い ・道路に隣接する公園や、歩道の脇に設置された休憩スペースが良い ・地域の個性や歴史を感じる、ほたるの里公園やほたるのせせらぎ公園が良い	
	親しみ・愛着	・親しみ・愛着を感じる（「福島西道路の風景や、福島西道路からながめられる周辺の風景が好きだから」）	
	誇り	・誇りに思う（「他ではみられない風景をながめることができるから／先進事例として表彰されたことを新聞や広報などで知ったため」）	
	その他	・景観やまちづくり、環境等に関する意識の高まり（事業プロセスへの参加を通じて、等）	
利用者行動に与える効果	利用形態・頻度等の変化	・「ショッピングなどの目的地までの通り道」、「散歩等」、「清掃などの維持管理活動」、「休憩スペースや隣接する公園での休憩」の順に、利用機会の増大がみられる	
	商業活動の活性化	・開通イベントとしてJA主催の青空市開催	
	地域活動の活性化	・沿道残地を利用した「こどもでコンサルティング」の実施 ・市民的行事「ほたるの里夏祭り」の実施（ほたるの放流、地区の人によるほたるのイラストや写真の展示）	
	環境保全、学習活動	・地元中学校を挙げての、環境保全活動の定期的実施	
	施設を核とした避難体制の構築	—	
	近隣住民同士の会話の場	・沿道に植えた花木の育てかたなどについて、近隣住民同士、手入れをしながら語らう場となっている ・沿道の掃除仲間が新たにできた	
	利用ルールの形成	・地下歩道空間の使用・利用・清掃に関するルールの設定	
	樹木の手入れ・花壇等の設置	・沿道緑地帯への花植え・草刈り等の手入れ（個人・団体両方）	
	清掃等の維持管理活動	・複数の町会々々による定期的な清掃活動 ・地元中学生によるボランティア活動（年中行事として） ・沿道の水神様への供物の交換	
	その他	・地域活動団体の活動の発展（「清水ホテルの会」発足／既存の町内会等によるボランティア・サポート・プログラム協定の締結／市によるアダプトプログラム「ふくしまきれいにし隊」への参加）	
施設周辺の空間に与える効果	商業活動の変化	—	
	建物ファサード変化	・沿道建物の修景（塀の撤去）	
	軒先空間の変化	・軒先への植栽	
	周辺景観の改善	・枝線路地の修景 ・沿道地区内の水路整備	
	周辺施設の連帯性の向上	—	
その他	視点場の形成	—	
	その他	・整備時期と併せた、地区計画（福島西地区計画）の策定（→転じて、自宅（店舗）の建物の外観整備、自宅（店舗）の外周りへの植栽配置・手入れ）	
その他	地場材の活用	・地場材（間伐材）でつくったファニチャーや、接道民家と歩道部との境界としての柵などの設置	
	他事業への波及	・外部表彰受賞（土木学会技術賞、平成8年） ・新聞や雑誌での記事掲載（道路供用時や供用後における各種イベント、地元学生によるボランティア活動の様子、委員会等に参加した沿道住民等のコメント） ・福島市・景観100選への選出（福島市都市政策部都市計画課、平成19年）	

	アンケート配布範囲 アンケート回収済世 地区計画区域
	▲自治会単位での清掃活動
	▲沿道店舗の店員による路上清掃
	▲残地を利用した地元イベント「みち空間・こどもでコンサルティング」
	▲犬の散歩ルートとなっている残地部
	▲ザリガニ捕りの傍ら、池に浮かぶゴミを拾い集める地元の子どもたち
	▲沿道住民による、残地の花の手入れ

2) 調査結果の整理

調査結果の詳細は以下の通り。

景観整備による効果		調査結果	調査手法
意識変化	①整備した空間の機能向上に対する認知	・「幅の広い歩道、ゆとりのある沿道空間」 (86%) ・「道路に隣接する公園や、歩道の脇に設置された休憩スペースが良い」 (75%)	アンケート (N=331)
	②造形・施設・空間の印象評価	・全体的に印象の良い景観の道路である (83%) 	アンケート (N=331)
	③親しみ・愛着	・「親しみ・愛着を感じる」 (81%) 	アンケート (N=331)
	④誇り	・「誇りに思う」 (58%) 	アンケート (N=331)
		・福島西道路の風景や、福島西道路からながめられる周辺の風景が好きだから (201/268 名) ・他の場所ではみられない風景をながめることができるから (119/192 名) ・先進的な事例として表彰されたことを、新聞や広報などで知ったため (42/192 名)	(複数回答)

利用者行動に与える効果	⑤その他 (景観やまちづくり、環境等に関する意識の高まり)	・整備後、悪化していく水環境に危機感をおぼえた地元団体が、その回復のための整備を行政に対して要請（その後、対応される）。 （⇒事業プロセスへの参加を通じての、意識の高まり） ・沿道風景づくり委員会のメンバーである地元住民。「私たちの道路だ!!」「通るたびに、私たちも道路づくりに参加したんだ、って思い出す」「道路に、みんなの意見や気持ち移されたことを子供たちにもずっと語り伝えたい」 【毎日新聞：家庭版 ふくしまびつくあつぷ、H7.10.15 より】 （⇒清掃等の維持管理活動を通じての、意識の高まり） ・地元中学生や町内会メンバーによる地下歩道の“すす払い”を通じて、「通学路なので大切に使いたい」 【福島民友・朝刊、H7.12.27 より】 ・地元中学校の地下歩道清掃行事に参加した中学生。「いつも通るたびにたばこの吸いがらを見かけていた。腕が張って疲れたが、きれいになった歩道を見ると気持ちがいい」 【朝日新聞、H19.5.30 より】 ・地元中学校の地下歩道清掃行事に参加した中学生。「こんなに汚いと思わなかった。たばこのポイ捨てなどやめてほしい」 【福島民友、H19.6.1 より】	ヒアリング（地元団体）
	①利用形態・頻度等の変化	・ショッピングなど目的地までの通り道（69%） ・散歩・ジョギング・ウォーキング（50%） ・通勤・通学路（31%） ・休憩スペースや隣接公園での休憩（25%） ・写真撮影・スケッチ・周りの景色を眺める（16%）   ■残地部にできた犬の散歩道 ■日陰のベンチで一息 ・水生動物との触れ合い ・公園内の池に浮かぶゴミ拾い   ■ザリガニ捕りの後、ゴミ拾いに興じる子どもたち ・供用開始年における「ほたるの里夏まつり」への来訪者は前年比2倍（約3000人）【福島民報・朝刊、H7.7.27 より】	アンケート（N=331）、定点観測
	②商業活動の活性化	（供用開始年のみ、青空市の開催、J A）	ヒアリング（地元団体）、定点観測
	③地域活動（イベント・行事）の活性化	・イベントの実施、参加、鑑賞（9%）	文献
			文献
			アンケート（N=331）

	・地域の年中行事「ホタルの里夏祭り」の盛隆（歩行者天国にして） ・ホタルの里夏祭り実行委員会発足 ・子どもたちによる、ゆとり空間のデザイン（計画～設置）「みち空間・こどもでコンサルティング」の実施   ■ホタルの里夏祭り （建設省（当時）パンフより） ■こどもでコンサルティング	ヒアリング（地元団体）、文献
④環境保全、学習活動	・地元団体による、ホタルの生息環境保全の場としての利用 ・地元学生による環境学習・ボランティア活動の場としての利用（勤労、奉仕の精神、郷土愛を養い、地域の一員としての自覚を高めるのが目的。毎年数百名の中学生が参加。教員・町内会員も参加。今年で14回目） ・「みんなのかわ・みんなのみちプロジェクト」の実施（国土交通省主催）   ■地元中学生による清掃活動（国交省HPより）	ヒアリング（地元団体）、文献
⑤施設を核とした避難体制の構築	—	
⑥近隣住民同士の会話の場	・沿道に植えた花木の育てかたなどについて、近隣住民同士、手入れをしながら語らう場となっている ・沿道の掃除仲間が新たにできた  ■水やりをしながらの会話が日課	定点観測 ヒアリング（地元住民）
⑦利用ルールの設定	・地下歩道空間の使用・利用・清掃に関するルールの設定（音楽演奏の禁止、清掃用具の管理、犬のフンの持ち帰り）	ヒアリング（地元住民）、文献

⑧樹木の手入れ、花壇等の設置 (美化活動の発生)	・沿道緑地帯への花植え・草刈り等の手入れ（個人・団体両方）  	定点観測 ヒアリング（地元住民）
⑨清掃等の維持管理活動	・清掃などの維持管理活動@整備後（24%） ・清掃などの維持管理活動@現在 （月2回～ほぼ毎日：8%、年数回程度：19%） ・地域団体の活動（6%） ・個人的な活動（14%） ・複数の町会各々による定期的な清掃活動 ・地元中学生によるボランティア活動（年中行事として） ・沿道の水神様への供物の交換   ■地元自治会による日曜清掃 ■水神様への供物の交換   ■沿道店舗店員による清掃 ■（同左）	アンケート ト (N=331) 定点観測 ヒアリング（地元住民）
⑩その他 (地域活動団体の活動の発展)	・地下歩道のギャラリーへの、地元住民の絵画・書・生け花等の展示 ・沿道掲示板への、沿道空間整備に関する地元小学生のアイデア掲示（→「こどもでコンサルティング」） ・「清水ホテルの会」発足@施工期直前（沿道住民と施工会社の若手社員による） ・既存の町内会等によるボランティア・サポート・プログラム協定の締結（泉地下歩道ボランティア：乙天堂地区親和会＋松南団地親和会） ・市によるアダプトプログラム「ふくしまきれいにし隊」への参加（①生活協同組合コープふくしま【清掃、46名】、②泉扇田親和会【清掃・除草等、23名】、③西道路いやしの空間きれいにしましょ。【清掃、除草等、2名】）	ヒアリング（地元住民）、文献

施設周辺の空間に与える効果	①商業活動の変化	—	
	②建物ファサード変化	・整備をきっかけにして、自宅（店舗）の建物の外観を周囲の景観に配慮して整備した（7/21名）	アンケート
	③軒先空間の変化	・整備をきっかけにして、自宅（店舗）の外周りへの植栽配置・手入れをしている（10/85名） ・整備をきっかけにして、自宅（店舗）敷地外の歩道空間を清掃している（39/126名）	アンケート
	④周辺景観の改善	・枝線路地の修景 ・沿道地区内の水路整備	ヒアリング（地元住民、行政）
	⑤周辺施設の連帯性の向上	—	
	⑥視点場の形成	—	
	⑦その他（良好な景観形成に寄与する制度への波及）	・整備時期と併せた、地区計画（福島西地区計画）の策定 ⇒転じて、地区計画策定をきっかけとした、 自宅（店舗）の建物の外観整備（2/21名） 自宅（店舗）の外周りへの植栽配置・手入れ（9/85名） 自宅（店舗）敷地外の歩道空間の清掃（19/126名）	文献、アンケート
その他	①地場材の活用	・地場材（間伐材）でつくったファニチャーや、接道民家と歩道部との境界としての柵などの設置  ■沿道家屋への柵としての活用 ■残地部へのファニチャー	文献
	②外部の意識変化	・外部表彰受賞（土木学会技術賞、平成8年） ・新聞や雑誌での記事掲載（道路供用時や供用後における各種イベント、地元学生によるボランティア活動の様子、委員会等に参加した沿道住民等のコメント） ・福島市・景観100選への選出（福島市都市政策部都市計画課、平成19年）  福島民報、H8.5.20 朝日新聞、H19.5.30 福島市、H19.4.1	文献

3) 効果の波及フロー

■福島西道路の景観整備による効果の波及フロー

